

便潜血検査

今回は人間ドックや健診で行うことも多い、便潜血検査についてのお話です。名前のとおり、便の中に血が混ざって（ひそんで）いないかをチェックする検査です。腸の中で出血すると、その血液が便に混じって排泄されます。出血が多ければ黒っぽい色から暗赤色の便になりますが、出血が少ないと肉眼的に変化は見られません。少量の出血を見つけ出すことがこの検査の使命です。検査は、患者さんご自身が検査キットの棒の先に少し便を取って、薬液に浸した状態で提出するという形態になっており、手軽にかつ清潔に検査が行えるようになっています。健診では1日1回ずつ2日間に分けて取っていただきます。2日間で行う理由は、血液が混ざっていても採取する便はほんの一部であるため、日にちを変えて2日間の便を検査することで、検査の精度を向上させるためです。成人の腸の長さは7~9mとされています。この長い距離を旅して排泄される便を検査することは、おなかの病気を知る上で重要な手がかりとなるのです。

